

第5回 三谷地区

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日時：平成31年3月10日（日）

午後1時30分～午後4時30分

会場：三谷公民館 大集会室

主催：蒲郡市

プログラム

開会	1：30
趣旨と経緯について ・ワークショップの趣旨・目的、進め方とスケジュール ・前回ワークショップでの議事概要	1：35
地区利用型施設再配置プラン案について ・評価の修正 ・付帯事項	1：50
グループ討議1 ・将来の三谷地区の公共施設の配置としてふさわしい案（絞り込み）	2：05
（休憩）	2：50
発表1	3：00
グループ討議2 ・各案について配慮すべきことや実施する上で注意すべきこと（付帯事項）	3：20
（休憩）	4：00
発表2	4：10
あいさつ	4：25
閉会	4：30

<目次>

- ・ ワークショップの趣旨・目的 1
- ・ 進め方とスケジュール 2
- ・ 第4回ワークショップの結果概要（案） 3
- ・ 第4回ワークショップふりかえりシートご意見 10
- ・ ご質問等への回答 13
- ・ 評価に関する修正意見についての対応及び考え方 17
- ・ 再配置プラン案の評価検証【修正版】 21
- ・ 三谷地区 地区利用型施設再配置プラン案 24
- ・ 付帯事項について 27
- ・ 本日の検討内容 29
- ・ （別冊）項目ごとの評価の解説【修正版】

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を反映させた三谷地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

進め方とスケジュール

1

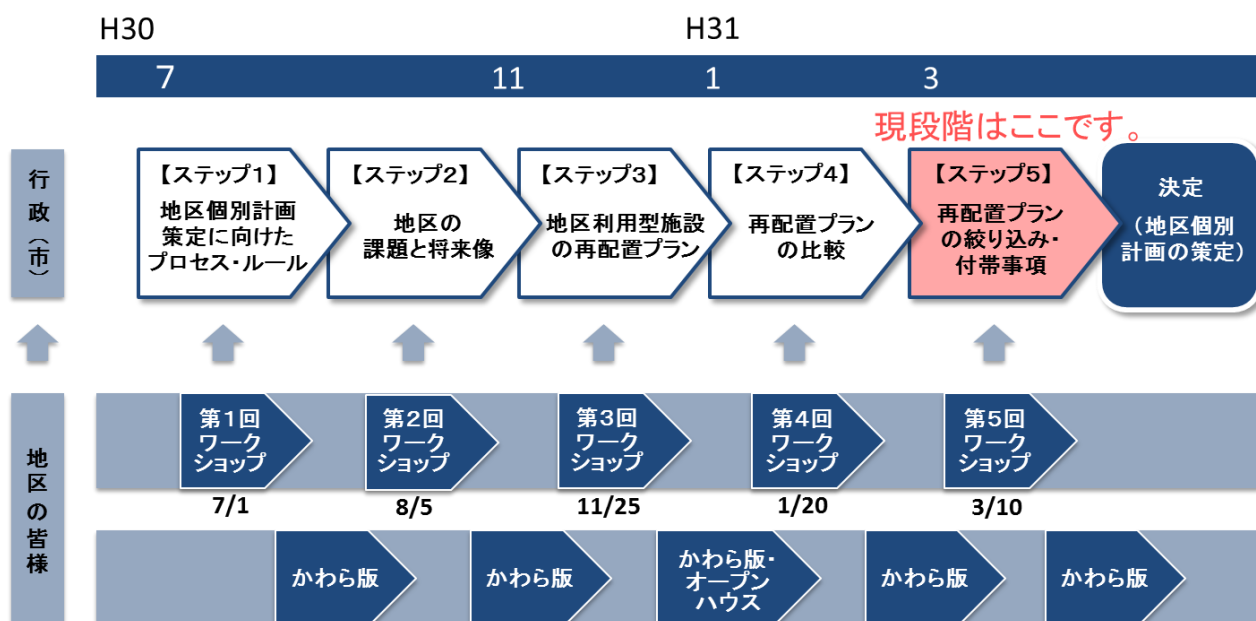
検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

- ステップ1** ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。
- ステップ2** 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。
- ステップ3** 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランを比較するための評価の視点について検討します。
- ステップ4** 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき評価し比較します。
- ステップ5** 再配置プランを絞り込むとともに、運営面での工夫等の付帯事項について整理します。

2

スケジュール（予定）



第4回ワークショップの結果概要（案）

1 再配置プラン案について

1) 案全般

- 公民館は現在の場所で建替えし、安全を確保した上で使い続けたい。高潮時の避難場所として使えるし、祭りの山車を引くルートが変わることによるトラブルを避けることもできるので、やはり現在の場所がよい。
- 祭りのためには公民館が現在の位置にある方がよいと思うが、祭りは年に1回のことなので、移転してもやり方を工夫すれば対応できるのではないか。
- 小学校が公民館と複合してオープンな場所になることで防犯上の問題が生じ、事件が起きないか心配だ。
- 部活の規模や教育の質を保つためには、ある程度のクラス数が必要になると思うので、竹島小学校の学区変更ができないのであれば、早い段階で小学校を統合すべきではないか。
- 小学校の統合は必要だと思うが、三谷小学校と三谷東小学校のどちら側の敷地に統合するかは判断しかねる。
- 小学校の統合については、子育て世代や児童の保護者の意向をアンケートなどを通じて確認する必要がある。統合されて移転する側の保護者の意見を聞くことは特に重要だ。
- 様々な意見があるため小学校の統合はなかなか進まないのが常なので、本当に実現できるのか心配だ。統合するプランに決めた場合は、市には確固たる意志を持って推進してもらいたい。
- 施設の統合や複合によって、学校のグラウンドが狭くなるのが問題ならば、向山公園をサブ的なグラウンドとして活用するという方法も考えられるのではないか。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 施設が移転された後に土地や建物が残ったり、移転後に別の施設を建てても土地が余ったりする場合に、それらをどの様に活用するのも含めて計画する必要があるのではないか。その方針によって案の評価も変わってくると思う。
- 竹島小の学区問題などは蒲郡南地区にも関係するが、それぞれの地区の考え方があると思う。三谷地区だけでなく蒲郡南地区などの人も含めてもっと広い範囲で、公共施設の再配置を考えた方が良かったのではないか。

2) 各案への意見

①A 案全般 (A・A1・A2 案)

- 竹島小の学区変更ができないのであれば、統合の判断を先延ばしせずに三谷小学校に統合するのがよい。その方が通学に不便になる子どもが少ないだろう。
- オープンハウス（パネル展示型説明会）のアンケート結果を見ると、三谷東小学校区の住民で三谷小学校側に統合されることに抵抗がある人はあまり多くない様なので、事業がスムーズに進むのではないかと。

②A 案

- 2つの保育園を三谷東保育園に統合することで、現状でも少ない駐車場がさらに足りなくなり、路上駐車が増えて状況が悪化することが心配だ。

③A1 案

- 三谷東小学校の敷地に2つの保育園と中学校が統合されると手狭になるのではないかと。
- 中学生の部活動に制約が生じる、保育園の送迎車で登校時の危険性が高まる、保育園児の活動の安全面に支障が出るなどの問題が発生すると思うので、中学校と保育園の複合化は望ましくない。もし複合するならば、それぞれの機能や利用動線を十分に分ける必要がある。

- 中学校は高台にあって避難所として適していると思うので、移転するとしても避難所機能は残せるとよい。

④A2 案

- 三谷東小学校の敷地は広いので、統合した保育園だけを建てるとかなり土地が余るのではないか。残った土地の活用を考える必要がある。

⑤B・C 案

- 三谷東小学校は地区の東寄りにあるので、西寄りに住む子供たちの通学距離が長くなってしまう。竹島小学校の学区変更に対応できる可能性を残すためにも、三谷小学校に統合した方がよい。
- 三谷小学校が三谷東小学校に統合されることに抵抗がある住民が多いと思うので、事業がスムーズに進まない可能性がある。
- 三谷東小学校には崖地になっている所があるので、2つの小学校を統合して新たな建物ができると危険ではないか。
- 三谷小学校よりも三谷東小学校の敷地の方が広いので、統合した際の余裕があるのがよい。
- コスト削減効果が高く、プロジェクトの目的を達成するという意味で優れている案なので、検討に入れる価値があると思う。

⑥C 案

- 三谷小学校の敷地は中学校を移転するには狭すぎると思う。

⑦D 案全般 (D・D1・D2・D3 案)

- 三谷小学校をそのまま残すならば竹島小学校の学区変更が不可欠だ。それができないならば小学校を統合せざるを得ないので、統合しない案は難しいだろう。
- 竹島小の学区変更に対する保護者の意向は確認できたが、小学校の学区変更は保護者や児童の都合や要望だけでなく、地域の将来も踏まえて考えなければいけない。学区変更しても児童数の問題が解決できないならともか

く、解決できる可能性があるのなら統合しない案も引き続き検討対象とすべきだ。

- 何年か先には児童数やクラス数がさらに減り、小学校を統合せざるを得ない状況が来るのだから、統合しない案は当面の処置、将来に向けた過程にすぎない。ライフサイクルコストの観点から考えても、早い段階で統合を検討すべきだと思う。

⑧D1 案

- 小学校の統合の有無を現段階で決めるのは難しいと思う。現段階では2校とも残して、子どもが減って学校が成り立たなくなるという危機感が地元住民に浸透し、差し迫った問題になってから統合を検討するというのはよい考え方だと思う。
- 三谷小学校区には高齢者が多く、今後も子どもが増えることは期待できないので、30年後ではなく5年、10年経てば1学年1クラスになってしまうだろう。判断を先延ばしにせず、小学校の統合を含めて施設を再編した方がよいのではないか。
- 三谷西保育園が三谷東保育園に統合されることで通園が不便になる人は、みどり保育園を利用すればよいだろう。ただしその場合には、みどり保育園の駐車場を充実させる必要がある。

⑨D2 案

- ライフサイクルコストの試算を見ると、削減効果が他の案と比較して低すぎる。

⑩D3 案

- ライフサイクルコストの試算を見ると、削減効果が他の案と比較して低すぎる。
- 児童館のすぐそばにみどり保育園があるので、近接して保育園が2つある必要性を感じない。児童館の敷地では広い園庭が取れないので、日常的な

外遊びや運動会などの行事に対応できなさそうなのも心配だ。

- 現況からの変化が最も少ない点がよいと思う。

2 再配置プラン案に対する意見

1) 評価の方法

- 評価項目が多すぎるので、評価結果が変わらない項目は取り上げないで項目数を減らし、もっとわかりやすい評価表にしてほしい。
- 案の比較評価がしやすくなるように、再配置プラン案をもう少し絞り込んでほしい。
- 現状で挙げられている項目はかなり細かい事柄を評価しているが、蒲郡市全体の中での地区の特性や地区間のつながりなど、もっとマクロな視点から考えて評価する項目があってもよいのではないか。
- 三谷地区の将来像を考え、それを達成できるかという視点から評価すべきだと思う。コストの評価が占める割合が高いので、地区の将来よりも市の財政負担の軽減が重視されてしまうのではないかと心配だ。
- どちらの小学校に統合するかを判断するためには、統合されて児童数が増えた場合でもグラウンドの面積が十分確保できるか、通学距離の遠くなる子供がどのくらいいるのかなど、もう少し詳細な検証が必要だ。

2) 評価項目

- イ
- 地区の伝統が保たれるかは、小学校の配置だけで判断すべきではない。祭りの拠点となる公民館が三谷小学校の位置に移転し、新たな拠点となれば伝統の継承としては十分に意味があるので、その点も評価すべきではないか。
- B案とC案の評価が「△」になっているが、三谷小学校の方が三谷東小学

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

校よりも地区の中心にあるという意識はない。三谷小学校の存続にこだわっているのは世代の高い人だけではないか。

ウ

- 三谷小学校に公民館が移転されても八剣神社の拝殿からの距離はさほど変わらないが、参道の入口からの距離はだいぶ変わる。移転すれば現状よりも祭りの際の機能は低下するので、いずれの案でも現状と比較して低い評価になると思う。

エ

- 公共施設マネジメントの議論の中で話し合っても結論が出る話ではないと思うので、評価項目として取り上げる必要性をあまり感じない。

カ

- 多人数と少人数のそれぞれにメリットとデメリットがあり、一長一短ということで全て「○」の評価なのだろうが、大勢の子どもの中で競争することやクラス替えで友達づきあいを学ぶことは子どもの成長にとって大切だと思う。
- 小学校の学習環境や活動内容の充実は、公共施設の再編によって達成できるのではなく、先生方による教育の質の向上などが要だと思うので、再配置案の評価項目にするのは違和感がある。

キ

- 中学校のグラウンドの使いやすさは、面積が確保できるかだけでなく、グラウンドの形状も含めて評価してほしい。

ク

- 国の基準ということだが、2キロは小学生には遠すぎる。どちらの小学校に統合するにせよ現状より通学が不便になる子どもがいるのだから、A～C案の評価は「△」になると思う。
- 日々の通学によって子ども達の体力や忍耐力が養われる面もあるので、2

キロの距離が長すぎてマイナスだとは一概に言えないのではないか。

ス

- 地域の子どもと大人との交流は公共施設の配置のようなハードから生まれるものではなく、ソフトの仕掛けで作るものだと思うので、評価項目にするのは疑問だ。

ソ・タ

- 全ての案の評価が一律になっているが本当にそうなのか疑問に思う。高台にある中学校が避難拠点として残るか、避難所指定されていなくても一時的に避難できる場所が近隣に確保できているかという点からも評価してほしい。たとえば公民館や中学校が移転しても、跡地に避難場所としての機能が残るのであれば問題ない。

3) 評価の重要度

- 市の将来を長期的な視点で考えれば、公共施設再編の目的であるコスト削減は重視すべきだろう。
- 保育園の送迎の主流は、以前は徒歩だったが今は自動車になってきている。その変化に対応できず駐車場が足りない保育園が多いので、「シ」の項目は重要だと思う。一方、徒歩での通園のしやすさをメリットと考える人は少ないと思うので、「サ」はあまり重視しなくてよいのではないか。

3 その他

- 施設を再編する案だけでなく、現在の施設をそのまま残し長寿命化を図る案も検討すべきだ。その方がライフサイクルコストも抑えられる。

第4回ワークショップ ふりかえりシートご意見

1 今日の議論で良かったこと

- いろいろな人の意見が聞けてよかった。
- 全体に、小学校は統合すべきかなーという方向性がみえてきた感じでした。
- それぞれの案の一長一短が、見えてきて、活発な意見が出されて、良かったと思う。
- 早く「行政」と「教育」のわくをしっかりと考えていく時にも近づいてきている。
- 今後の三谷について十分話せました。
- 内容や方向性がよく整理されて、議論が深められたこと。
- アンケートにもありましたけど、竹島小の関係者の意見をきけて良かったです。
- みなさん、同じ様な意見を思っている。
- いろんな話を聞けて良かったです。
- 現状の小学校の生徒の少ないことなどが分かりました。
- 相反する意見が出し合えたことは良いが意見を深めるには時間がなく、そのため、問題解決につながらない。
- 早々に竹島へのアンケートをして下さったのは、今回の討議で参考になりました。
- 活発に話が進んで良かったです。
- すごくおおざっぱなテーマだったので心配していたがファシリテータの方がうまくリードしてくれてよく議論でき、方向性もまとめることができました。
- 小学校統合が一番のネックで慎重に考えて行かなければいけない。良い方向に、向かっていました。
- コストに対する考え方が高いと感じた。
- 用意していただいた資料のおかげで、自分の意見の中に理想論が含まれて

いることに気づいた。今回は現実的なところもふまえて議論できた。

- 今日のグループの意見の異なる所があるのでダメなものやよいものと整理して案を作り直してほしい。
- どの案にも対立する意見がそれぞれありまとめる事が困難である事がわかった。
- 具体的な意見が出されていた様に思いました。前回出席できなくて、内容を理解する事に時間のかかった事にとまどいを感じましたが、みなさんの思いの入った意見に、入り込めた事に感謝します。三谷に対するみなさんの気持 厚く感じました。
- 2つの小学校を存続する事のむずかしさをデータで実感出来ました。
- 議論の要点が明確に示してくれたので議論がやりやすかった。（竹島地区などの）データやパネル展示の声などが分かったので前回から意見の方向が明確になりました。

2 内容について言い足りなかったこと

- 今後打合せた結果がどういかにされるのかが心配です。
- 評価方法が疑問点が多いし、項目が多すぎてわかりづらい。力点をどこにおくべきかの話し合いも必要なのでは…
- 3年～5年の内に学区統合を行うべき、市主動で
- 公民館を移動しても前あった場所がなにもなくなると祭典の時に使いづらいいので今の場所で良い。移動した後にやっぱりなにか欲しいと新しく建物を作るとコストがかかると思います。
- 合意形成（多くの人々が納得できる案にしぼるか、まとめること）を重要視すべきではないか。
- そもそもすべての建物を建て直しなのか？長寿命化？改築なのか？何年間のスパンで考えるべきなのか？
- 維持・管理費は複合化が本当に解決策か、長寿命化がよいか、資料が不足している。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 保育園の先生や小中学校の先生の声もきいてみたいです。（統合などのリアル感）
- 小学校の統合がからむと非常に重いので、1つの案にまとめてしまうのは危険な気がする。
- 西の竹島小についてはばかり言及しているが、東の大塚小等はどうなのか。
- 竹島小の周りは、元々、水田地が多い所であり、竹島小ができてから来た人は、三谷の人という意識は少ないとみられる。
- 評価のものさしが、一方的が見方になっているものが多い。
- 準備資料が少し足りない様に感じました。
- 竹島小学校の三谷小の統合は、三谷町全体としての意見も確認すべきでは。町全体で子供をささえていく以上竹島小の親の意見のみを集計しても片手落ちかと思います。
- 竹島小の子供も三谷小の子供も三谷町民がささえてゆくべきだと考えます。

ご質問等への回答

- どちらの小学校に統合するかを判断するためには、統合されて児童数が増えた場合でもグラウンドの面積が十分確保できるか、通学距離の遠くなる子供がどのくらいいるのかなど、もう少し詳細な検証が必要だ。

【運動場面積について】

- 小学校設置基準（文部科学省令）では、運動場の面積について規定されており、児童数 241 人以上 720 人以下の小学校には、 $2,400 + 10 \times (\text{児童数} - 240)$ m²以上の運動場が必要とされています。
- 平成 30 年度の三谷小学校と三谷東小学校の児童数を足すと 518 人ですが、必要な運動場面積を式にあてはめて計算すると 5,180 m²となります。
- 現状の運動場面積は、三谷小学校が 7,407 m²、三谷東小学校は 12,667 m²であり、統合した場合も十分に基準以上の面積の確保が可能です。
- なお、運動場が現状より狭くなることが想定される D2 案でも基準以上の面積の確保は可能です。
- また、統合した場合には、当然ながら 1 人当たりの面積は低下しますが、かつての児童が多かった状況を踏まえると、適切な学校運営が十分に可能と考えています。

【通学距離について】

- 三谷小学校敷地での統合と三谷東小学校敷地での統合を比較するために、各小学校の周辺年少人口を算定しました。（p.14 に掲載）
- 検討の参考にしてください。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

表 小学校区ごとの各小学校の周辺年少人口

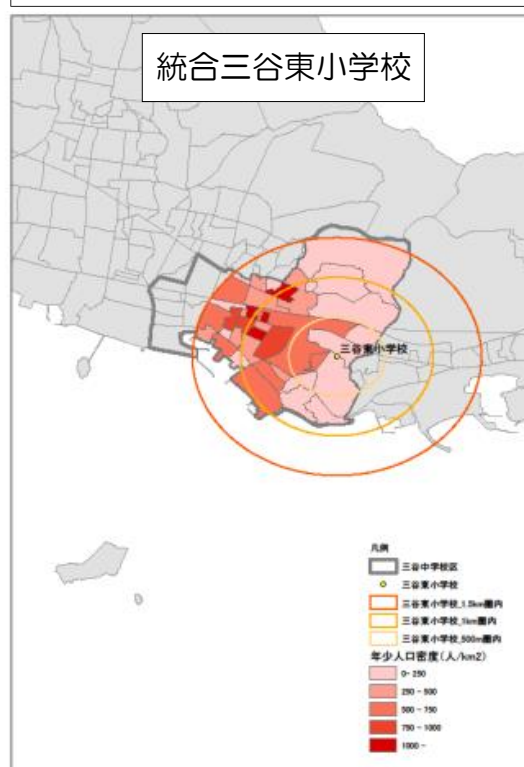
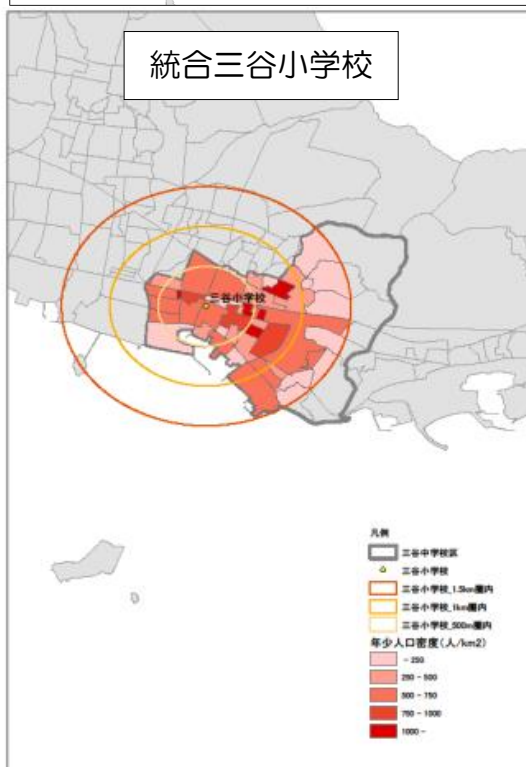
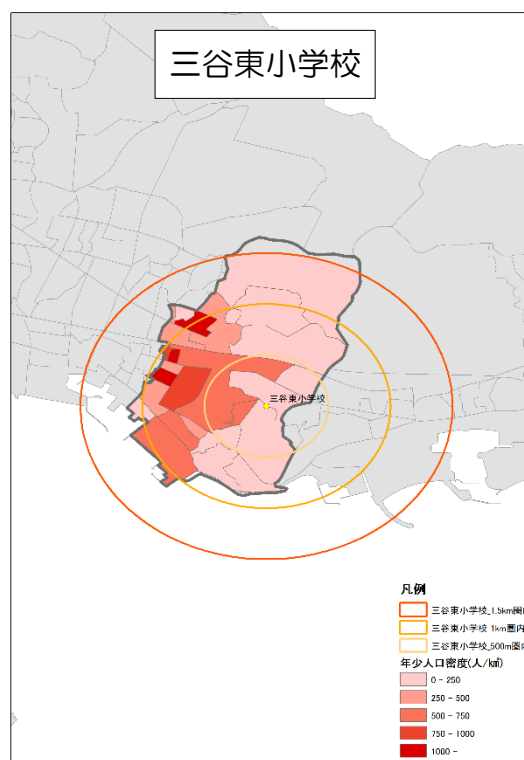
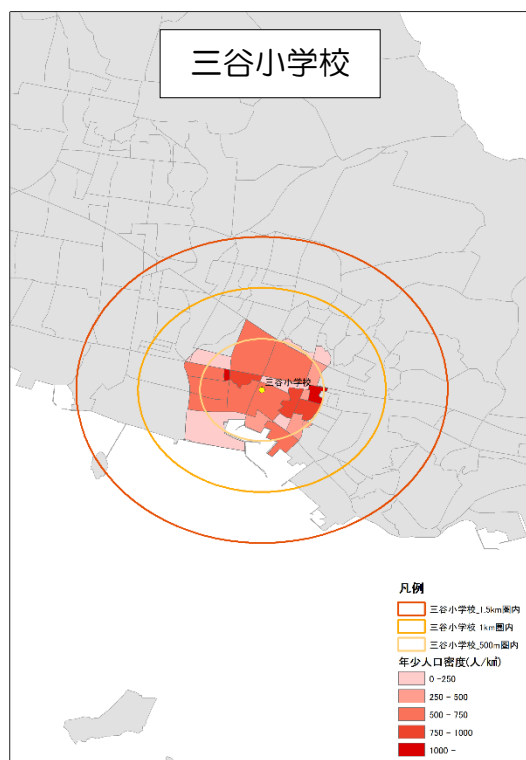
単位：人

	三谷小【A】	三谷東小【B】	三谷小+三谷東小【A】+【B】	統合三谷小【C】	増減【C】-（【A】+【B】）	統合三谷東小【D】	増減【D】-（【A】+【B】）
500m圏内	444	169	613	448	-165	169	-444
1km圏内	553	644	1,197	955	-242	667	-530
1.5km圏内	553	744	1,297	1,252	-45	1,001	-296

※ 平成27年国勢調査データの町丁目ごとの人口に基づき三谷中学校区内の圏域人口を算出した。

※ 町丁目の一部が圏域に該当する場合は、該当する町丁目の人口を面積割して算出した。

※ 町丁目の中に小学校区の境界がある場合は、町丁目の人口を面積割して算出した。



まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 竹島小の学区問題などは蒲郡南地区にも関係するが、それぞれの地区の考え方があると思う。三谷地区だけでなく蒲郡南地区などの人も含めてもっと広い範囲で、公共施設の再配置を考えた方が良かったのではないか。

【検討の対象区域について】

- このワークショップでは、検討の対象を三谷地区（三谷中学校区）にある地区利用型施設としており、ご参加いただいている皆様には、地区内での将来の施設の配置を検討していただいています。
- ただし、隣接地区にまたがる再編の必要性については、ご意見として受け止め、今後の検討の参考にさせていただきます。

- 施設の統合や複合によって、学校のグラウンドが狭くなることが問題ならば、向山公園をサブ的なグラウンドとして活用するという方法も考えられるのではないか。

【向山公園の活用について】

- p.13 の回答のとおり、どの案になったとしても、小学校設置基準を満たす運動場面積の確保が可能です。
- また、三谷小学校から約 700m 離れている向山公園を日常的な活動に利用することは、学校運営の面から難しいと考えています。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

● 何年か先には児童数やクラス数がさらに減り、小学校を統合せざるを得ない状況が来るのだから、統合しない案は当面の処置、将来に向けた過程にすぎない。ライフサイクルコストの観点から考えても、早い段階で統合を検討すべきだと思う。

【近い将来の児童数及び学級数について】

- 児童数及び学級数について3年後（平成33年度）のまでの予測を下表にまとめました。検討の参考にして下さい。

表 3年後までの児童数・学級数予測

三谷小学校

	1年				2年				3年				4年				5年				6年				計			
	男	女	計	学級	男	女	計	学級	男	女	計	学級	男	女	計	学級	男	女	計	学級	男	女	計	学級	男	女	計	学級
H30年度	15	23	38	2	16	15	31	1	16	14	30	1	18	13	31	1	22	21	43	2	19	23	42	2	106	109	215	9
H31年度	20	17	37	1	15	22	37	1	16	15	31	1	16	15	31	1	18	13	31	1	23	21	44	2	108	103	211	7
H32年度	16	13	29	1	20	17	37	1	15	22	37	1	16	15	31	1	16	15	31	1	18	13	31	1	101	95	196	6
H33年度	14	12	26	1	16	13	29	1	20	17	37	1	15	22	37	1	16	15	31	1	16	15	31	1	97	94	191	6

三谷東小学校

	1年				2年				3年				4年				5年				6年				計			
	男	女	計	学級	男	女	計	学級	男	女	計	学級	男	女	計	学級	男	女	計	学級	男	女	計	学級	男	女	計	学級
H30年度	20	18	38	2	28	20	48	2	20	26	46	2	34	24	58	2	29	29	58	2	27	28	55	2	158	145	303	12
H31年度	28	17	45	2	20	18	38	2	30	20	50	2	20	27	47	2	34	24	58	2	30	29	59	2	162	135	297	12
H32年度	22	24	46	2	28	17	45	2	20	18	38	2	30	20	50	2	20	27	47	2	34	24	58	2	154	130	284	12
H33年度	20	19	39	2	22	24	46	2	28	17	45	2	20	18	38	2	30	20	50	2	20	27	47	2	140	125	265	12

- ※1 「男」、「女」及び「計」の各数値の単位は「人」
- ※2 「学級」は普通学級数
- ※3 平成30年度の数値は、平成30年5月1日現在の実数
- ※4 平成31年度の数値は、平成31年2月4日現在の平成31年度における児童数・学級数についての市教育委員会の見込み（以下、「平成31年度見込み」という。）
- ※5 平成32年度の1年並びに平成33年度の1年及び2年の数値は、平成30年8月1日現在の住民基本台帳データに基づく予測（市教育委員会調べ）
- ※6 ※5を除く平成32年度以降の数値は、平成31年度見込みに基づき作成
- ※7 児童数には特別支援学級の児童を含んでいるため、1学年35人を超えていても普通学級数が1の場合がある。

評価に関する修正意見についての対応及び考え方

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
1	評価方法	評価項目が多すぎるので、評価結果が変わらない項目は取り上げないで項目数を減らし、もっとわかりやすい評価表にしてほしい。	<p>○ワークショップでいただいたご意見をもとに、評価項目を設定しています。</p> <p>○ご意見を踏まえ、評価の差をわかりやすくするために評価項目の中で、評価結果が一律でない項目を抜き出した評価結果の一覧表を各テーブル上に用意します。</p>
2	評価方法	案の比較評価がしやすくなるように、再配置プラン案をもう少し絞り込んでほしい。	○これまでのワークショップでは、大きな意見のまとまりがみられないと考えられるため、第5回ワークショップでは、全ての案を検討の対象としてグループ討議を進めていただきたいと思います。
3	評価方法	現状で挙げられている項目はかなり細かい事柄を評価しているが、蒲郡市全体の中での地区の特性や地区間のつながりなど、もっとマクロな視点から考えて評価する項目があってもよいのではないか。	<p>○ワークショップでいただいたご意見をもとに、評価項目を設定しています。</p> <p>○提示している項目の他に設定すべき評価項目がある場合は、グループ討議にてご意見をお願いします。</p>
4	評価方法	三谷地区の将来像を考え、それを達成できるかという視点から評価すべきだと思う。コストの評価が占める割合が高いので、地区の将来よりも市の財政負担の軽減が重視されてしまうのではないかと心配だ。	○「評価結果点数表」の点数は、参考としてお示ししたものであり、点数によって再配置プランを選定するものではありません。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
5	イ	地区の伝統が保たれるかは、小学校の配置だけで判断すべきではない。祭りの拠点となる公民館が三谷小学校の位置に移転し、新たな拠点となれば伝統の継承としては十分に意味があるので、その点も評価すべきではないか。	○ご意見を踏まえ、現在の三谷小学校の位置に小学校が残ることでもなくとも、コミュニティの拠点が残ることが、地区の伝統や象徴が保たれることによる住民意識のまとまりにつながっていると考えられることから、評価の方法を変更し、小学校またはコミュニティの中心となる公民館が現在の三谷小学校の位置に存在する案（全ての案）を「○」としました。
6	ウ	三谷小学校に公民館が移転されても八剱神社の拝殿からの距離はさほど変わらないが、参道の入口からの距離はだいぶ変わる。移転すれば現状よりも祭りの際の機能は低下するので、いずれの案でも現状と比較して低い評価になると思う。	○ご意見を踏まえ、公民館が三谷小学校の位置に移転した場合においても、伝統行事の拠点としての活用しやすさは低下するものとして捉え、評価項目ウは、全ての案を「△」に変更しました。
7	エ	公共施設マネジメントの議論の中で話し合っても結論が出る話ではないと思うので、評価項目として取り上げる必要性をあまり感じない。	○ワークショップにおいて、産業振興、観光振興及び住宅を増やす取り組みによる地区の活性化が求められていたことから視点②「地区の活性化」を設定し、評価項目エ「産業の活性化や住宅開発が進むか。」で評価しました。
8	カ	小学校の学習環境や活動内容の充実には、公共施設の再編によって達成できるのではなく、先生方による教育の質の向上などが要だと思うので、再配置案の評価項目にするのは違和感がある。	○ご指摘のとおり、学習環境や活動内容を充実させるためには、教師による指導方法などの学校の運営が重要ですが、この評価では、施設の再配置による効果を比較するために、小学校の配置で学習環境や活動内容が充実する可能性を評価しています。 ○なお、運営方法については、付帯事項（再配置の実施後に配慮すべきことや実施する上で注意すべきこと）として整理していきます。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
9	キ	中学校のグラウンドの使いやすさは、面積が確保できるかだけでなく、グラウンドの形状も含めて評価してほしい。	<p>○三谷地区の小中学校の敷地の形状をみると、3校とも特異な形状でなく、飛び地も無いため、形状を評価する項目は、設定していません。</p> <p>○ただし、検討の参考に、3校の敷地の形状がわかる図面を各テーブルに用意します。</p>
10	ク	国の基準ということだが、2キロは小学生には遠すぎる。どちらの小学校に統合するにせよ現状より通学が不便になる子どもがいるのだから、A～C案の評価は「△」になると思う。	<p>○小学校が統合した場合においても、文部科学省が通学距離の目安としている4kmの半分の半径2kmの範囲内に、地区のほぼ全域が収まるため、適切な通学距離は現状と変わらず保たれることから全ての案を「○」としています。</p> <p>○ちなみに、1.5km圏内の小学校の周辺年少人口をみると、現状が1,297人、三谷小学校に統合する案が1,252人（対現状比：-3.5%）、三谷東小学校に統合する案が1,001人（対現状比：-22.8%）となり、三谷小学校に統合する場合は、現状と大きな差はありません。（p.14 参照）</p>
11	ス	地域の子どもと大人との交流は公共施設の配置のようなハードから生まれるものではなく、ソフトの仕掛けで作るものだと思うので、評価項目にするのは疑問だ。	<p>○ご指摘のとおり、地域の子どもと大人の交流には、ソフトの仕掛けなど運営の工夫が重要ですが、この評価では、施設の再配置による効果を比較するために、施設の配置で子どもと大人の交流が行われる環境が充実する可能性を評価しています。</p> <p>○なお、運営の工夫については、付帯事項（再配置の実施後に配慮すべきことや実施する上で注意すべきこと）として整理していきます。</p>

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
12	ソ・タ	<p>全ての案の評価が一律になっているが本当にそうなのか疑問に思う。高台にある中学校が避難拠点として残るか、避難所指定されていなくても一時的に避難できる場所が近隣に確保できているかという点からも評価してほしい。たとえ公民館や中学校が移転しても、跡地に避難場所としての機能が残るのであれば問題ない。</p>	<p>○三谷中学校の敷地のみでなく、三谷小学校や三谷東小学校の敷地も津波・高潮の想定浸水域に該当しておらず、津波・高潮からの安全は確保できます。</p> <p>○三谷中学校が現地で廃止となるA・A1・C案においても、三谷小学校敷地及び三谷東小学校において避難所または避難場所の設置が可能なことから、三谷中学校が避難拠点として現地に残ることを評価する項目は設定していません。</p>
13	その他	<p>施設を再編する案だけでなく、現在の施設をそのまま残し長寿命化を図る案も検討すべきだ。その方がライフサイクルコストも抑えられる。</p>	<p>○どの案を採用するにしても、プランを実現する過程で、継続的に保有することが適切な建物には、長寿命化を実施し、ライフサイクルコストの低減を図ります。</p> <p>○コンクリートの中性化の進行具合など、老朽化の状況によっては、長寿命化が実施できない建物や実施しても費用面でのメリットを生み出せない建物もありますので、地区個別計画策定後に詳細な調査を行い、棟ごとに長寿命化を実施するかを判断していきます。</p>

再配置プラン案の評価検証【修正版】

1 再配置プラン案を比較評価するための評価軸

視 点	内 容	評価項目
① 地区のまとまり	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区住民同士が関わり合い、三谷としてのまとまりを作りやすくなっているか。 ● 地区の行事や活動の中心となる拠点が整備されているか。 	ア 地区の子ども同士の一体性を作りやすいか。(学校の配置により評価) イ 地区の伝統や象徴が保たれる施設の配置になっているか。(小学校の配置で評価) ウ 地域の伝統行事に活用しやすい施設の配置になっているか。(公民館の配置で評価)
② 地区の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 産業活性化などの地域振興が進むか。 	エ 産業の活性化や住宅開発が進むか。
③ 学校教育環境の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な学校規模が維持されているか。 ● 学習環境や活動内容が充実しているか。 ● 学校の配置は適切か。 	オ 適切な学校規模が維持されているか。(30年後の小学校の学校規模を国の基準にあてはめて評価) カ 小学校の学習環境や活動内容は充実しているか。 キ 中学生のグラウンドでの活動のしやすさは保たれるか。 ク 適切な通学距離が保たれているか。
④ 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの居場所は確保されているか。 ● 子育てしやすい環境が整備されているか。 	ケ 小学生にとって放課後に安心して過ごせる場所が確保されているか。(児童クラブの配置で評価) コ 地区内に中高生が勉強する場所は確保されているか。 サ 保育園の徒歩での通園のしやすさは保たれているか。(保育園の周辺年少人口で評価) シ 保育園へ自動車で送迎しやすくなったか。(保育園の駐車場の確保しやすさを評価)
⑤ 多世代・同世代で活動・交流できる場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な世代の方が交流できる環境は充実しているか。 ● 同世代で気軽に利用・交流できる場は確保されているか。 	ス 日常的に子どもと地域の大人の交流が行われる環境が充実したか。(公民館と学校・保育園・児童館との関係で評価) セ 子育て世代や中高生など若い世代が同世代で集まれる環境は充実したか。(公民館・児童館の配置と機能について評価)
⑥ 防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全の確保された立地となっているか。 ● 避難所・避難場所の数や位置は適切か。 ● 機能が集合した施設の防犯対策・安全面への配慮がされているか。 	ソ 津波・高潮の危険を避けられる施設配置になっているか。 タ 災害時の避難所・避難場所は確保されているか。 チ 利用者の防犯面での安全は確保されているか。
⑦ 利便性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 1カ所で多様な活動が行えるようになったか。 ● 各所から通いやすい施設配置となっているか。 ● 駐車スペースは十分確保されているか。 	ツ 1カ所で多様な活動が行なえる施設配置になったか。 テ 公民館へのアクセスしやすさは向上しているか。(公民館の周辺人口と駐車場の確保しやすさを評価) ト 児童館の駐車場が十分に確保されているか。
⑧ 将来負担の縮減	<ul style="list-style-type: none"> ● 維持更新費用・運営費用は縮減されているか。 	一定期間の施設にかかる総コストが低いものを評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・面積が小さいなど、建替え・改築費・改修費・修繕費が安価な場合は総コストが低くなる。 ・土地の売却や借地の返還が発生する場合は、総コストが低くなる。 ・面積が小さいなど、建物の維持管理費(光熱費・保守点検費等)が安価な場合は総コストが低くなる。

2 評価方法

- 視点①～⑦については、評価項目ごとに ◎：現状より向上、○：現状維持もしくは一長一短がある、△：現状より低下 の3段階で評価します。
- 視点⑧については、LCC（ライフサイクルコスト）の試算における50年間の縮減額に基づき評価します。（試算の結果及び条件等は別冊資料「項目ごとの評価の解説」p.17～21のとおり。）

3 項目ごとの評価結果

視点	評価項目	A案	A1案	A2案	B案	C案	D案	D1案	D2案	D3案
① 地区のまとまり	ア 地区の子ども同士の一団性を作りやすいか。（学校の配置により評価）	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○
	イ 地区の伝統や象徴が保たれる施設の配置になっているか。（小学校の配置で評価）	○	○	○	△○	△○	○	○	○	○
	ウ 地域の伝統行事に活用しやすい施設の配置になっているか。（公民館の配置で評価）	△	⊖△	⊖△	⊖△	⊖△	⊖△	⊖△	⊖△	⊖△
② 地区の活性化	エ 産業の活性化や住宅開発が進むか。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③ 学校教育環境の適正化	オ 適切な学校規模が維持されているか。（30年後の小学校の学校規模を国の基準にあてはめて評価）	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△
	カ 小学校の学習環境や活動内容は充実しているか。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	キ 中学生のグラウンドでの活動のしやすさは保たれるか。	○	○	○	○	△	○	○	○	○
	ク 適切な通学距離が保たれているか。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
④ 子育てしやすい環境づくり	ケ 小学生にとって放課後に安心して過ごせる場所が確保されているか。（児童クラブの配置で評価）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	コ 地区内に中高生が勉強する場所は確保されているか。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	サ 保育園の徒歩での通園のしやすさは保たれているか。（保育園の周辺年少人口で評価）	△	△	△	△	△	△	△	○	○
	シ 保育園へ自動車送迎しやすくなったか。（保育園の駐車場の確保しやすさを評価）	△	○	◎	◎	△	○	△	△	○
⑤ 多世代・同世代で活動・交流できる場づくり	ス 日常的に子どもと地域の大人の交流が行われる環境が充実したか。（公民館と学校・保育園・児童館との関係で評価）	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	セ 子育て世代や中高生など若い世代が同世代で集まれる環境は充実したか。（公民館・児童館の配置と機能について評価）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑥ 防災・防犯	ソ 津波・高潮の危険を避けられる施設配置になっているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	タ 災害時の避難所・避難場所は確保されているか。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	チ 利用者の防犯面での安全は確保されているか。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑦ 利便性の確保	ツ 1カ所で多様な活動が行なえる施設配置になったか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	テ 公民館へのアクセスしやすさは向上しているか。（公民館の周辺人口と駐車場の確保しやすさを評価）	○	○	○	◎	△	△	△	△	△
	ト 児童館の駐車場が十分に確保されているか。	○	○	○	◎	○	△	△	○	△
⑧ 将来負担の縮減	LCC（ライフサイクルコスト）試算における50年間の縮減額 （単位：百万円）	6,909	6,959	6,315	6,593	6,737	3,675	3,473	1,406	1,491
	◎の個数	5	6	7	9	6	4	4	4	4
	○の個数	12	13 12	12 11	9	9	12 11	11 10	13 12	13 12
	△の個数	3	4 2	4 2	2	5	4 5	5 6	3 4	3 4

- 視点①～⑦については、各評価項目の ◎=2点、○=1点、△=0点として足し合わせ、75点に得点割合を乗じた値を下表のⅠにまとめました。
- 視点⑧については、50年間のLCC（ライフサイクルコスト）の縮減額の最も高い案を25点とし、その他の案は縮減額に比例して減点した値を下表のⅡにまとめました。
- ⅠとⅡを足し合わせ100点満点で合計を計算しました。

Ⅰ 地区の魅力や安全に関する項目（視点①～⑦）についての評価（75点満点）

A案	A1案	A2案	B案	C案	D案	D1案	D2案	D3案
41.25	45.00	46.88	50.63	39.38	35.63	33.75	37.50	37.50
	46.88	48.75			37.50	35.63	39.38	39.38

Ⅱ 将来負担に関する項目（視点⑧）についての評価（25点満点）

A案	A1案	A2案	B案	C案	D案	D1案	D2案	D3案
24.82	25.00	22.69	23.69	24.20	13.20	12.48	5.05	5.36

縮減額 (6,909百万円) (6,959百万円) (6,315百万円) (6,593百万円) (6,737百万円) (3,675百万円) (3,473百万円) (1,406百万円) (1,491百万円)

合計（Ⅰ＋Ⅱ）（100点満点）

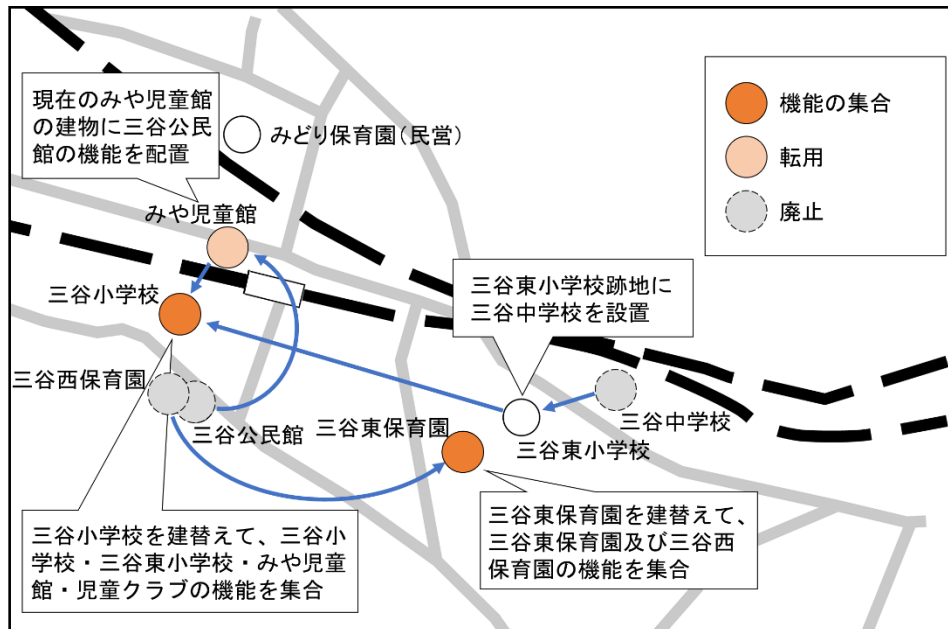
A案	A1案	A2案	B案	C案	D案	D1案	D2案	D3案
66.07	70.00	69.57	74.32	63.58	48.83	46.23	42.55	42.86
	71.88	71.44			50.70	48.11	44.43	44.74

A

子どもに関わる機能を集めて
子どもが育ちやすい環境を整えるプラン

【重点を置いた解決策】 ②③④

- 三谷小学校の敷地に、2つの小学校、みや児童館、児童クラブの機能を集め子育ての拠点をつくります。
- 三谷東保育園の敷地に2つの保育園を統合した保育園を設置します。
- みや児童館（1階のデイサービス部分を含む）の建物を改装し、公民館の機能を配置します。
- 三谷東小学校の跡地に、三谷中学校を移転します。



特徴

- 小学校を統合することで、一定の規模を維持することができる。
- 安全にアクセスできる小学生の放課後の居場所ができる。
- みや児童館の建物をデイサービス部分を含めて有効活用できる。
- 三谷中学校が徒歩でアクセスしやすくなる。

【関連する解決策】 ②③④⑤⑥⑧⑨⑩⑫⑬

課題

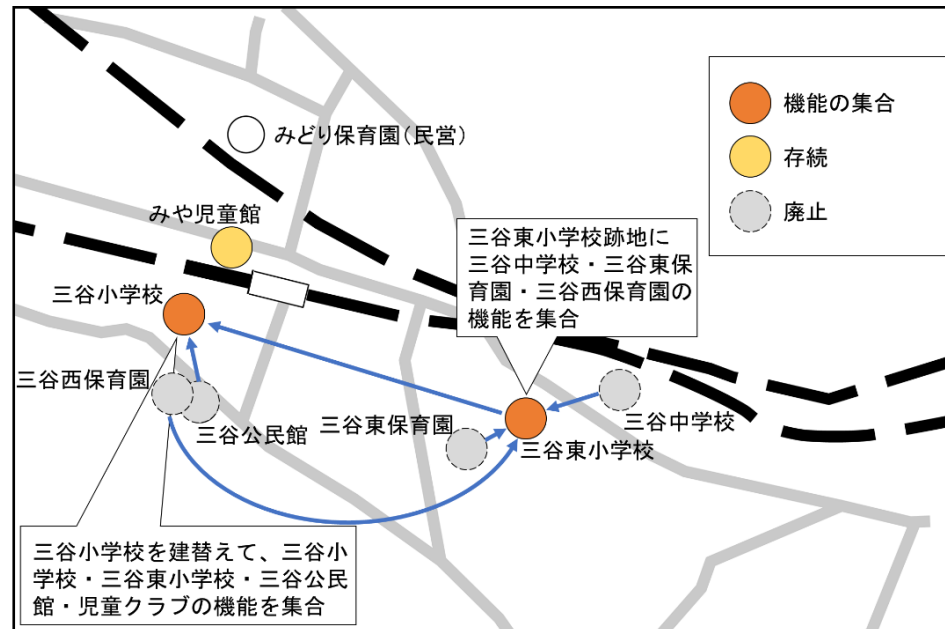
- 小学校や保育園への徒歩でのアクセス性が低下する地域が存在する。

ご意見に基づく追加プラン

A1

公民館と小学校、中学校と保育園が集合するプラン【A案の一部を修正】

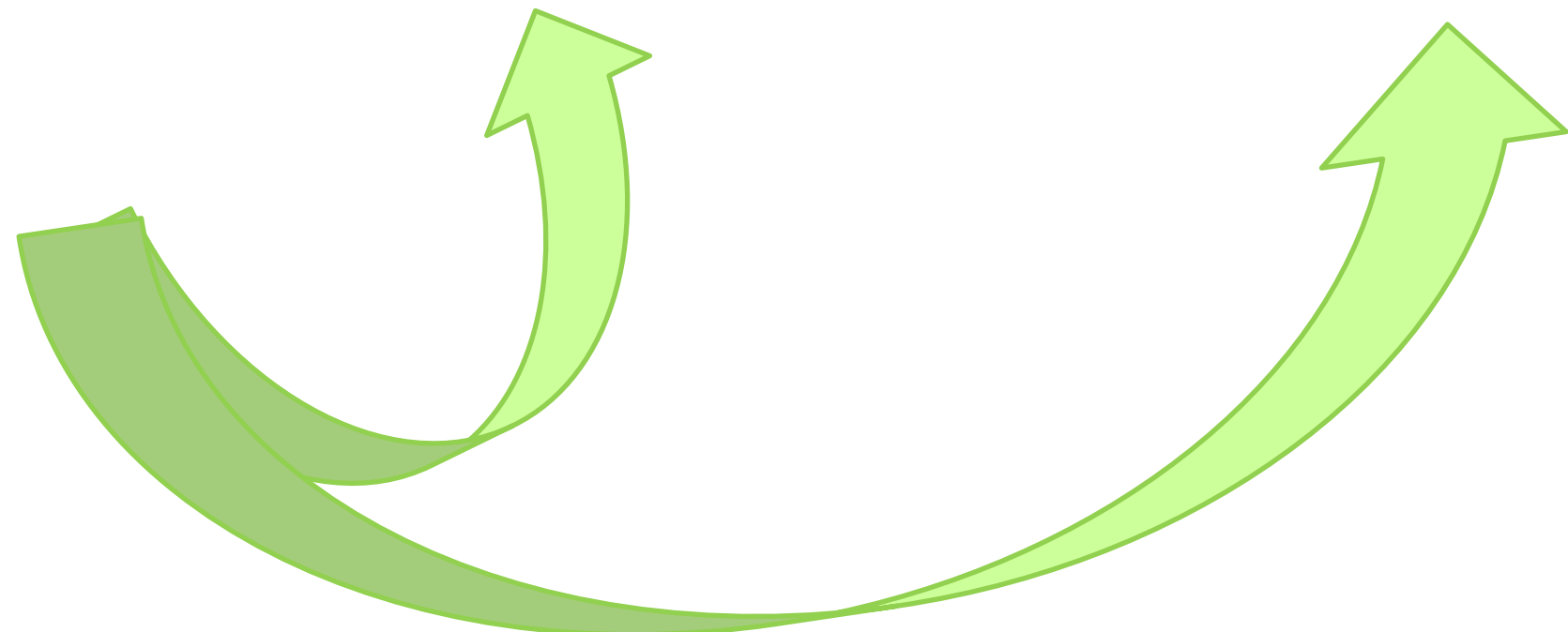
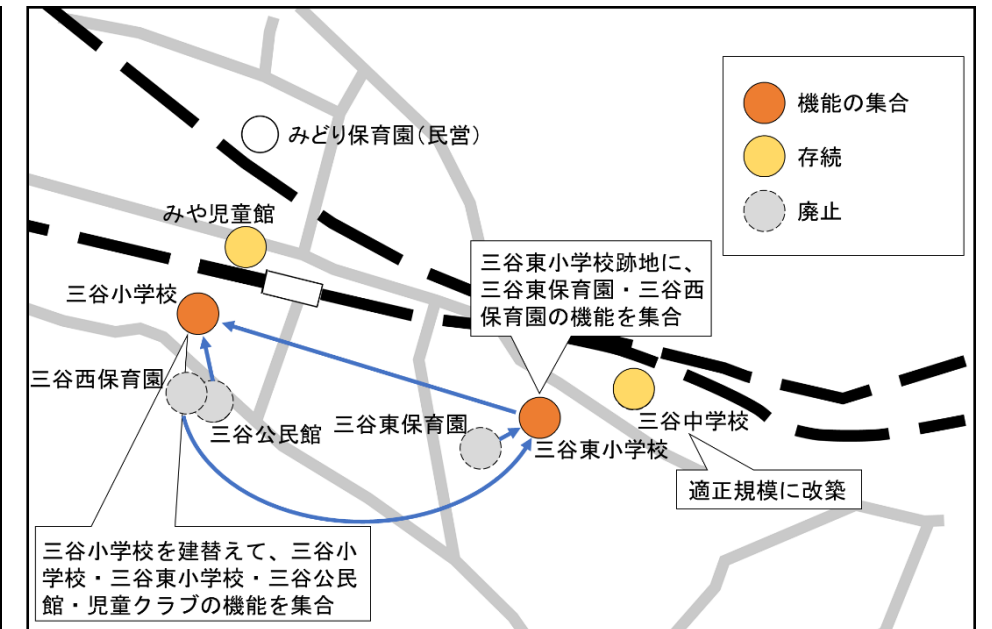
- 三谷小学校の敷地に、2つの小学校、三谷公民館、児童クラブの機能を集め地域活動の拠点をつくります。
- 三谷東小学校の敷地に三谷中学校と2つの保育園の機能を集めます。
- みや児童館は現地で維持していきます。



A2

公民館と小学校が集合するプラン【A案の一部を修正】

- 三谷小学校の敷地に、2つの小学校、三谷公民館、児童クラブの機能を集め地域活動の拠点をつくります。
- 三谷東小学校の跡地に、2つの保育園を統合した保育園を設置します。
- 三谷中学校及びみや児童館は現地で維持していきます。

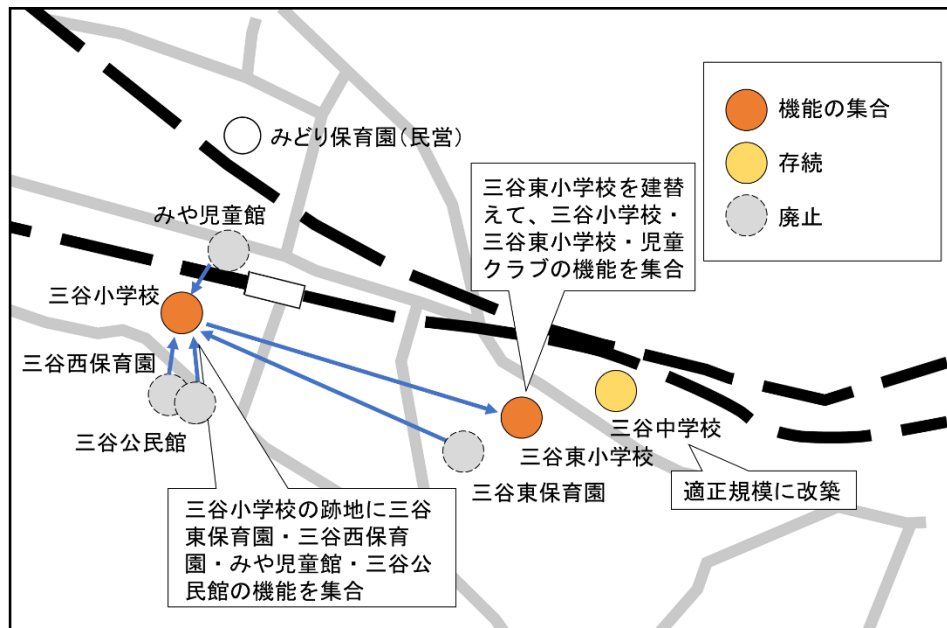


B

使いやすく充実した 地域活動と保育の拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】①②⑪

- 三谷東小学校の敷地に、2つの小学校を統合して設置し、児童クラブの機能を配置します。
- 三谷小学校の跡地に、2つの保育園、みや児童館、三谷公民館の機能を集め、広い敷地で使いやすい地域活動と保育の拠点をつくりま。



特徴

- 小学校を統合することで、一定の規模を維持することができる。
- 三谷小学校の跡地を活用でき、駐車場やグラウンドなどに余裕がある使いやすい地域活動や保育の拠点ができる。
- 公民館を利用する高齢者と保育園や児童館を利用する子ども達の交流機会が増える。

【関連する解決策】①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬

課題

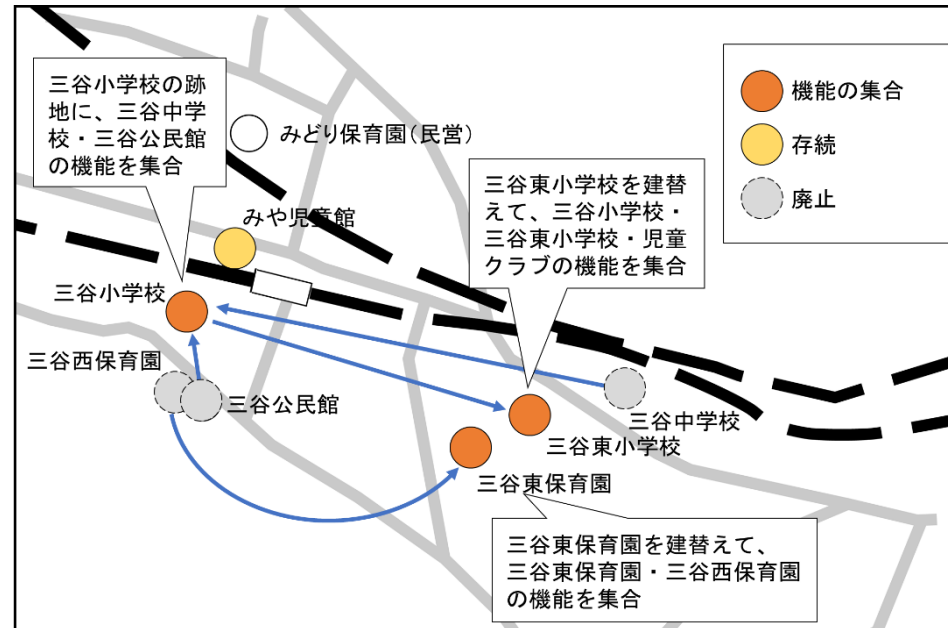
- 小学校や保育園への徒歩でのアクセス性が低下する地域が存在する。
- 比較的新しい児童館の建物の活用方法の検討が必要。

C

将来を担う中学生が 地域活動に関わりやすくするプラン

【重点を置いた解決策】②⑥⑦

- 三谷東小学校の敷地に、2つの小学校を統合して設置し、児童クラブの機能を配置します。
- 三谷小学校の跡地に三谷中学校と三谷公民館の機能を集め中学生が地域の行事等に関わりやすい環境をつくりま。
- 三谷東保育園の敷地に、2つの保育園を統合した保育園を設置します。



特徴

- 小学校を統合することで、一定の規模を維持することができる。
- 中学生にとって三谷祭をはじめとする地域の活動がより身近になる。
- 周辺人口の多い位置に中学校が移ることから中学生の通学しやすさが高まる。

【関連する解決策】①②④⑤⑥⑦⑧⑨⑫⑬

課題

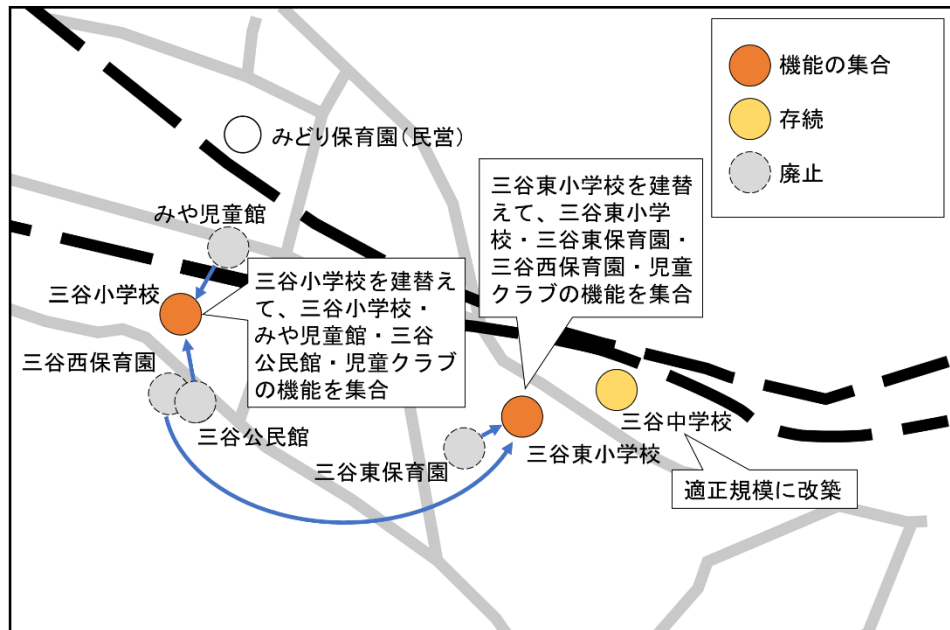
- 小学校や保育園への徒歩でのアクセス性が低下する地域が存在する。

D

通学のアクセスを維持するプラン

【重点を置いた解決策】⑥⑩

- 三谷小学校の敷地に、三谷小学校、みや児童館、三谷公民館、児童クラブの機能を集め複合化します。
- 三谷東小学校の敷地に、三谷東小学校、2つの保育園、児童クラブの機能を集め複合化します。
- 小学校の位置を変えないことで、通学のアクセスを維持します。



特徴

- 小学校への通学のアクセスを維持できる。
- 三谷小学校において、安全にアクセスできる小学生の放課後の居場所ができる。
- 三谷小学校の児童が地域活動に関わりやすくなるとともに公民館を利用する高齢者と交流しやすくなる。
- 三谷東小学校と保育園の交流が行いやすくなる。

【関連する解決策】①③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪

課題

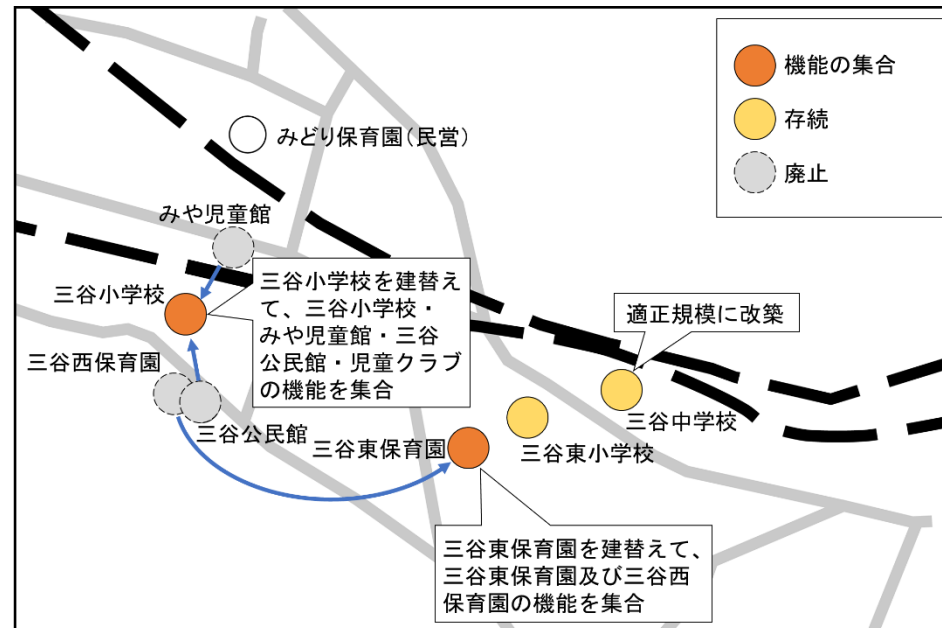
- 児童数の少ない小学校を維持していく必要があり、費用負担が大きい。また将来的には、1学級の学年が増えることや部活動の選択肢が減ることが想定される。
- 比較的新しい児童館の建物の活用方法の検討が必要。

ご意見に基づく追加プラン

D1

三谷東保育園敷地で保育園を集約するプラン【D案の一部を修正】

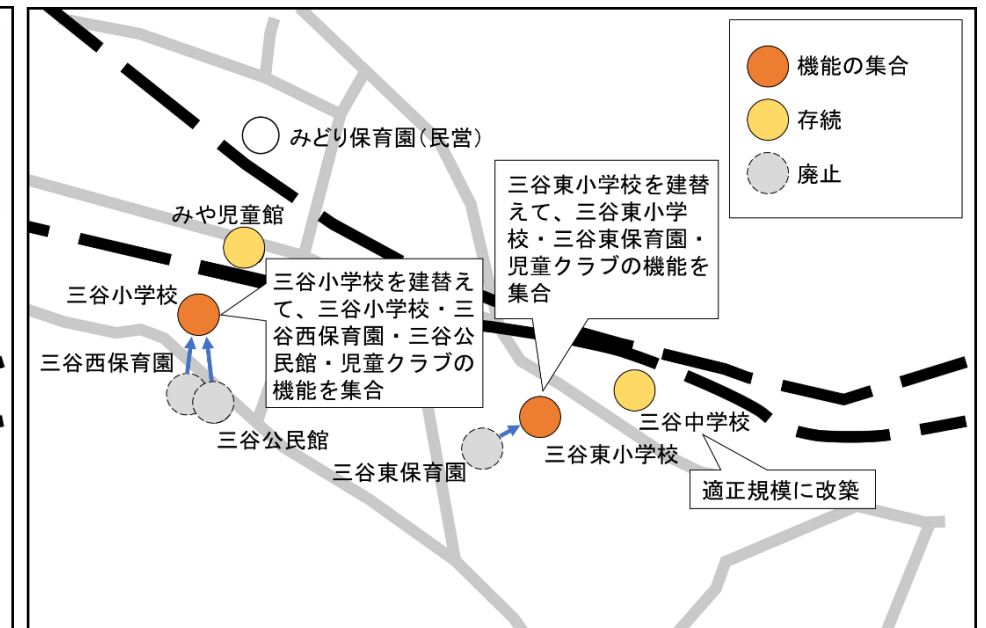
- 三谷東保育園の敷地に2つの保育園を統合した保育園を設置します。
- 三谷小学校において学年1クラスの状態が継続すると見込まれる程度まで子どもの数が減少した時点で、小学校の統合に向けた再検討を行う。



D2

2つの保育園を残すプラン①【D案の一部を修正】

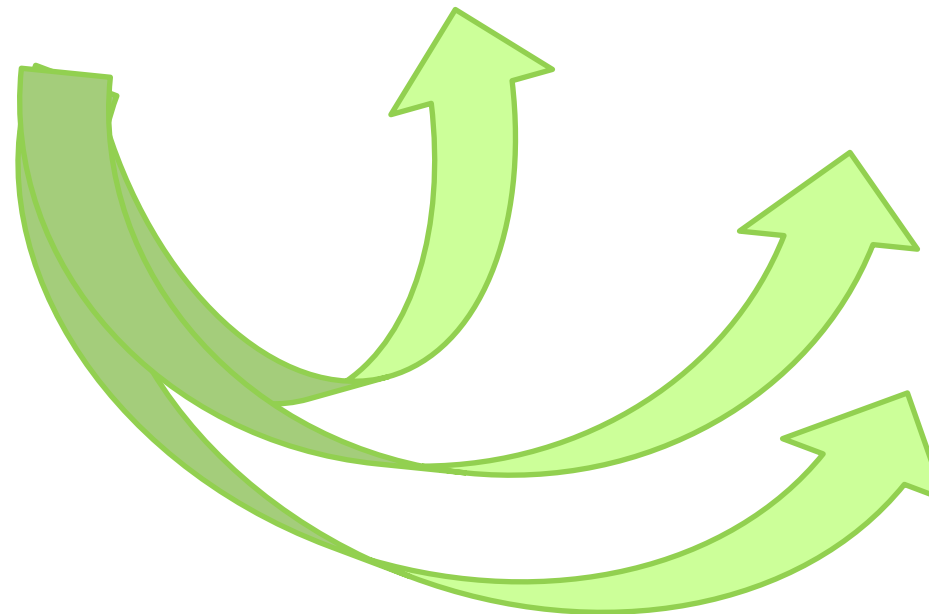
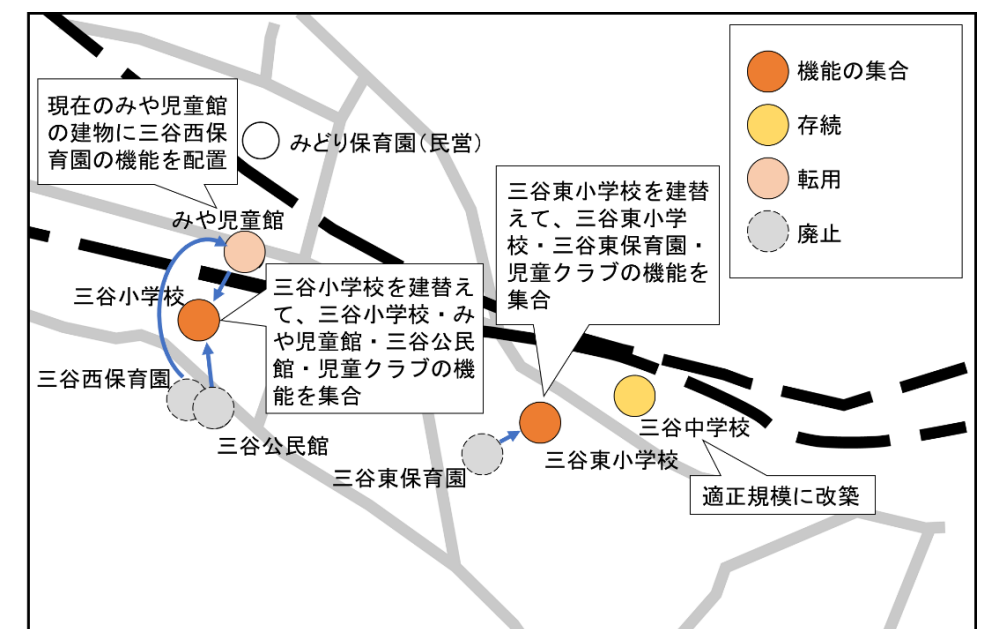
- 2つの保育園を2つの小学校敷地にそれぞれ移設します。
※ このプランでは、三谷小学校のグラウンドが現状より狭くなることが想定されます。
- みや児童館は現地で維持していきます。



D3

2つの保育園を残すプラン②【D案の一部を修正】

- 三谷東保育園を三谷東小学校敷地に移設します。
- みや児童館（1階のデイサービス部分を含む）の建物を改装し、三谷西保育園の機能を配置します。



付帯事項について

施設の再配置を実施後に配慮すべきことや実施する上で注意すべき事項（運営面での工夫等）を抽出・整理しましょう。

（参考）これまでにいただいたご意見

視 点	ご意見
① 地区のまとめり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政区と学校区が異なることが、行事への参加に支障となっていることや、一体感の欠如につながっているため、学校区の変更や学校選択制の導入を検討する。 ・ 三谷地区だけでなく周辺地域の状況を踏まえて公共施設の再配置を検討する。 ・ 展示館機能など伝統行事の拠点としての機能の付加を検討する。
② 地区の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の評価を高めて、子どもが増えるよう、子育て環境を整えて子育て世代にアピールする。
③ 学校教育環境の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ・ （小学校を統合した場合）児童の通学の安全性や利便性を確保するため、スクールバスの運行などアクセス対策を行う。 ・ 指導方法や運営方法の工夫により、学習環境や活動内容を充実させる。
④ 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後も安心して子どもが過ごせる場所を確保するため、空き教室などを活用する。 ・ 中高生が勉強するための自習室の機能を設ける。 ・ （小学校と保育園を複合した場合）園児と児童が共存できる工夫をする。 ・ （学校と保育園を複合した場合）幼児と児童生徒が干渉しあうことによる危険性や騒音、送迎時の事故を防ぐため、棲み分けや動線の分離を行う。 ・ バスを利用して保育園への送迎の負担を軽減する。

⑤ 多世代・同世代で活動・交流できる場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多世代・同世代の交流を生むためのソフト面や空間の作り方を工夫する。 ・ 空きスペースを利用して交流空間とする。 ・ 機能が集合しても、教員の教育活動以外での負担が増えないように配慮する。
⑥ 防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・ （学校や保育園に他施設を複合化した場合）不特定多数の人の出入りがあるので、防犯カメラの設置やソフト面の対策によりセキュリティを強化する。 ・ （中学校と保育園を複合した場合）安全に配慮して、それぞれの機能や利用動線を分ける。 ・ 災害時の避難対策を考慮して再配置計画を作る。 ・ 津波・高潮想定浸水域に位置する三谷西保育園はできるだけ早く移転する。
⑦ 利便性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空きスペースや各区の集会所などを活用して利便性を維持する。 ・ 駅や公共施設へのアクセスの確保のため、コミュニティバスを導入するなどアクセス対策を行う。
⑧ 将来負担の縮減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の長寿命化による将来負担の縮減。 ・ 空き教室や空き施設の有効活用。 ・ 将来の財政負担増に対する共通認識の醸成。 ・ 効率的に需要の増減に対応できるよう転用しやすい設計とする。 ・ 跡地を有効に活用する。
⑨ 運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ より利用しやすくするために、利用ルールの緩和や予約方法の簡素化などを行う。 ・ 各施設の利用方法・活用実態の見える化を行う。 ・ インターネットを活用して予約状況等の情報発信を行う。

本日の検討内容

- ① これまでのワークショップでの検討内容や評価結果を踏まえると、将来の三谷地区の公共施設の配置としてふさわしい案はどの案ですか。
どのようなことを重視してその案を選びましたか。

- ② 皆様が将来の三谷地区にふさわしいと考える再配置プラン案を整理しました。
各案について配慮すべきことや実施する上で注意すべきことはありますか。